

令和8年〔前期〕
保育士試験 及び 地域限定保育士試験
問題用紙

社 会 的 養 護

(選択式 10 問)

指示があるまで開かないこと

【注意事項】

各問題の正答数は、問題文中に示される。

問題文中に示された正答数と異なる数を解答すると、不正解になる。

【例題 1】

問 1 次のうち、〇〇に関する記述として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 ……
- 2 ……
- 3 ……
- 4 ……
- 5 ……

正答が「2」である場合は、マークシートの「②」を塗りつぶしていれば正解になる。

問題番号	解 答 番 号
問 1	① ● ③ ④ ⑤

問題文中に示された正答数と異なる数を塗りつぶすと不正解になる。

問題番号	解 答 番 号
問 1	① ● ● ④ ⑤

【例題 2】

問 2 次のうち、〇〇に関する記述として、正しいものを3つ選びなさい。

- 1 ……
- 2 ……
- 3 ……
- 4 ……
- 5 ……

正答が「2」「3」「5」である場合は、マークシートの「②」「③」「⑤」を塗りつぶしていれば正解になる。

問題番号	解 答 番 号
問 2	① ● ● ④ ●

問題文中に示された正答数と異なる数を塗りつぶすと不正解になる。

問題番号	解 答 番 号
問 2	① ② ● ④ ⑤

問題番号	解 答 番 号
問 2	① ② ● ④ ●

解答用紙に「記入上の注意事項」が記載されているので併せて確認すること。

問1 次のうち、「子ども虐待対応の手引き」（令和6年4月改正版 こども家庭庁）による子ども虐待の発生におけるリスク要因に関する記述として、適切なものを○、不適切なものを×とした場合の正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- A 保護者側のリスク要因として、高齢の妊娠・出産が挙げられる。
- B 保護者側のリスク要因として、慢性疾患を有していることが挙げられる。
- C 子ども側のリスク要因として、養育者にとって何らかの育てにくさを持っている子どもが挙げられる。
- D 養育環境のリスク要因として、家庭の経済的困窮が挙げられる。
- E 養育環境のリスク要因として、親族などの身近なサポートを得られない家庭が挙げられる。

(組み合わせ)

	A	B	C	D	E
1	○	○	×	○	○
2	○	×	×	×	○
3	×	○	○	○	○
4	×	○	×	×	×
5	×	×	○	○	×

問2 次の文は、「小規模住居型児童養育事業（ファミリーホーム）実施要綱」（平成21年 厚生労働省）第1「目的」の一部である。（ A ）～（ C ）にあてはまる語句の正しい組み合わせを1つ選びなさい。

小規模住居型児童養育事業は、養育者の家庭に児童を迎え入れ、家庭における養育環境と同様の養育環境において養育を行う（ A ）の一環として、保護者のない児童又は保護者に監護させることが不適当であると認められる児童（中略）に対し、この事業を行う住居（中略）において、児童間の（ B ）作用を活かしつつ、児童の自主性を尊重し、基本的な生活習慣を確立するとともに、豊かな人間性及び（ C ）性を養い、児童の自立を支援することを目的とする。

(組み合わせ)

	A	B	C
1	家庭的養護	凝集	社会
2	家庭養護	相互	協調
3	家庭的養護	相互	協調
4	家庭養護	相互	社会
5	家庭的養護	凝集	協調

問3 次のうち、社会的養護における里親の現状に関する記述として、適切なものを○、不適切なものを×とした場合の正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- A 里親の種類は、養育里親、専門里親、養子縁組里親の3つである。
- B 養育里親と専門里親の里親手当は同額である。
- C 養育里親は、養育里親研修を修了し、里親名簿に登録を行った後、10年ごとに登録更新を行う。
- D 養育里親の認定については、配偶者がいなくても児童を適切に養育できると認められる者は認定して差し支えないとされている。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	×
2	○	×	○	○
3	○	×	○	×
4	×	○	×	○
5	×	×	×	○

問4 次のうち、「被措置児童等虐待対応ガイドライン～都道府県・児童相談所設置市向け～」(令和5年3月 厚生労働省)に関する記述として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 里親による虐待は、被措置児童等虐待に含まれない。
- 2 一時保護する施設における虐待は、被措置児童等虐待に含まれない。
- 3 被措置児童等虐待を受けたと思われる子どもを発見した者については、通告義務が課せられている。
- 4 被措置児童等虐待の状況の把握及び事実確認は、要保護児童対策地域協議会が行う。
- 5 被措置児童等虐待が発見された場合には、当該施設等で生活している他の被措置児童等に対し、適切で分かりやすい経過説明ときめ細やかなケアを実践することが求められている。

問5 次のうち、社会的養護に関わる専門職に関する記述として、適切なものを○、不適切なものを×とした場合の正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- A 児童指導員は、社会福祉士の資格を有していなければならない。
- B 家庭支援専門相談員は、保育士または社会福祉士の資格を有した者で、厚生労働大臣が指定する講習を修了した者でなければならない。
- C 母子生活支援施設において、心理療法を行う必要があると認められる母子10人以上に心理療法を行う場合には、心理療法担当職員を置かなければならない。
- D 児童養護施設において、アフターケア対象者が5人以上いる場合は、自立支援担当職員を置かなければならない。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	○	×	×
3	○	×	×	○
4	×	×	○	○
5	×	×	○	×

問6 次のうち、「児童養護施設入所児童等調査の概要（令和5年2月1日現在）」（こども家庭庁）に関する記述として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 ファミリーホームに委託されている子どもの約8割が保護者などから虐待を受けた経験がある。
- 2 児童自立支援施設に入所する子どもの「心身の状況」で「該当あり」のうち、反応性愛着障害が最も多い。
- 3 乳児院における「養護問題発生理由」は、「その他」を除くと、「母の精神疾患等」「母の放任・怠だ」「母の虐待・酷使」の順に多い。
- 4 児童養護施設における「入所時の保護者の状況」では、「両親ともいない」「両親とも不明」を合わせて約3割である。
- 5 里親に委託されている子どもの「家族との交流関係」では、「交流あり」よりも「交流なし」の方が多い。

問7 次のうち、「乳児院運営指針」（平成24年 厚生労働省）に関する記述として、適切なものを○、不適切なものを×とした場合の正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- A 多くの職員が勤務をしている利点を活かし、担当養育者を半年や1年程度で交代することで入所児童の発達を促し、個性を伸ばすことが望ましい。
- B 施設の備品である玩具、食器などは措置費で購入しているため、入所児童には自分の所有物という認識を持たせず、共有のものとして利用させる。
- C 施設は集団での生活であるため、食事は時間内に残さず食べることができるように訓練する。
- D 個々の乳幼児の発達状況や個性に配慮し、専門的視点から遊びの計画や玩具を用意し、遊びを通じた好奇心の育みや身体機能の発達を支援する。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 2 | ○ | ○ | × | × |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | ○ | ○ | ○ |
| 5 | × | × | × | ○ |

問8 次のうち、児童心理治療施設での治療的支援に関し、「情緒障害児短期治療施設運営指針」（平成24年 厚生労働省）に照らし、不適切なものを1つ選びなさい。

- 1 治療の基盤は、治療的に配慮された日々の生活にある。
- 2 治療目標は子どもの状況に応じて子ども、保護者及び児童相談所等の関係者と相談しながら決めていく。
- 3 子どもがいきいきと自信をもって生活を送ることができるように支援することが治療的な養育の基本であり、自分の生活に関して選択できる機会を多く取り入れることが必要である。
- 4 治療的な観点から集団活動を控えさせるなど特別な対応を行う場合は、権利侵害に当たらないか児童相談所と相談し、児童相談所長が決定する。
- 5 日常生活がほぼ変わらずに流れ、子どもたちが見通しを持って行動ができる日課が、安心感につながる。

問9 次の【事例】を読んで、【設問】に答えなさい。

【事例】

G乳児院で生活するF君（2歳、男児）は、入院してから半年間、シングルマザーである母親との交流を重ねてきたが、母親の持病の回復が見込まれないことから、当面の間は家庭復帰が困難となった。F君を担当する児童相談所の児童福祉司や、G乳児院の保育士、家庭支援専門相談員でケース会議を開き、養育里親への委託を検討することになった。

その後、家庭支援専門相談員が母親との面談の際に、F君の里親委託の意向について尋ねると「里親にFを取られてしまうのではないか」、「Fが里親になつてしまうのではないか」といった不安な気持ちを漏らした。

【設問】

次のうち、F君の母親に対して、家庭支援専門相談員が行う説明として、適切なものを○、不適切なものを×とした場合の正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- A 養育里親について説明し、親子関係が途切れるわけではないことを説明する。
- B 里親による家庭環境がF君の健全な心身の発達や成長を促すものであることを説明する。
- C 養育里親に委託された場合、母親とF君の面会については、F君の生活が落ち着く目安の半年程は原則不可になることを伝える。
- D 養育里親に委託するかについては、母親が決定できることを伝える。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	×
3	○	×	×	×
4	×	○	○	○
5	×	×	○	○

問 10 次の【事例】を読んで、【設問】に答えなさい。

【事例】

Z 児童養護施設で生活をしている J 君（14 歳、男児）は、父親との親子関係再構築を目指すなかで、この 1 年間定期的な面会と自宅への一時帰宅を実施し、順調に進んでいる。

Z 児童養護施設で J 君を担当し、生活ユニットのリーダーである K 保育士は、一時帰宅を終えて帰ってきた J 君と話をしたところ、「父親から叩かれた」と言い、また同時に「でも一時帰宅など交流は中止したくない」とのことだった。K 保育士は、施設長に報告し、ただちに Z 児童養護施設で対応を検討することになった。

【設問】

次のうち、Z 児童養護施設での対応として、適切なものを○、不適切なものを×とした場合の正しい組み合わせを 1 つ選びなさい。

- A J 君の話から判断し、父親による身体的虐待と判定する。
- B J 君に、一時帰宅中の様子や、父親への想いについて改めて確認をする。
- C 児童相談所に、状況や J 君の意向を報告し、対応を協議する。
- D J 君に、「子どもの要望を叶えることが我々は大切だと考えているから、今後もお父さんと交流を続けよう」と伝える。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	×
2	○	×	○	×
3	○	×	×	○
4	×	○	○	×
5	×	○	×	○